



広報



市の木・もくせい



FUSSA

平成23年(2011年)

12月1日 No. 844

発行/福生市 編集/企画財政部秘書広報課
〒197-8501 福生市本町5
☎042-551-1511 (市役所代表)
毎月1日・15日発行

▼福生市12月の主なイベント▼

10日(土)～	郷土資料室企画展示
16日(金)～	「家庭の日」図画・作文、明るい選挙啓発ポスター、「税を考える週間」書道展 作品展
24日(土)	ウィンターコンサート

ホームページ <http://www.city.fussa.tokyo.jp/>

今号の主な記事

2面市職員募集 3面税金に関するお知らせ 5面市内放射線量測定結果 6面住宅用省エネ・新エネ設備助成金交付制度 7面小・中学生の作品が選ばれました 8-9面12月3日～12月9日は「障害者週間」です 12面“本はともだち”フェスティバル

消防団とは?

常勤の消防署職員とは異なり、火災や台風などのときなどに自宅や職場などから駆けつけて、その地域での経験を生かした消火活動などを行ないます。消防団員の身分は、非常勤特別職の地方公務員で、活動中に負傷した場合に公務災害補償制度や一定期間以上勤務して退団された方には退職報償金制度などが適用されます。

福生市消防団(団長・石川高広)について
本部、第一～五分団から組織され、5つの地域に各1か所、消防団分団が設置され、本部11名、各分団35名ずつ、合計186名で組織されています。任期は1期2年ですが転居、転勤、家族状況等で途中退団もできます。

対象 市内に住所を有するまたは勤務する18歳以上の男性
募集期間 随時、市役所、各分団で受け付けています。定員に達した場合、登録していただき、定員が欠けた時にお声を掛けさせていただきます。

活動内容

▼①災害出動

火災や台風などの災害時に仕事や学業に支障をきたさない範囲で出動し、消火活動、警戒活動を行ない、福生市民の生命、財産を守ります。

「火災」

福生市は住宅化が進み、火災が発生すると家から家への延焼が危ぶまれます。火災発生時には火元に隣接する家屋に対し、放水することで、延焼家屋を最小限にしなければなりません。

地域に住みまたは勤務している消防団員は、地域の隅々を知っている経験から、ポンプ自動車が進入できない裏道等から手押しポンプを搬送したり、ホースをかついで火元に駆け付け放水し、火元に近い住宅への延焼を食い止めています。



台風で倒壊したフェンスを抑え、被害を最小限に抑えた団員たち

また、もし近くに身体が不自由な方が住んでいる場合には消防署職員に連絡したり、避難誘導なども行ないます。

「台風、大雨などの風水害」

今年9月に関東地方を直撃した台風15号は、福生市にも倒木、塀、屋根が飛ばされるなどの被害をもたらしました。

消防団員は台風接近とともにいち早く参集、出動し、消防署職員と連携を図

消防団員募集

問合せ 安全安心
まちづくり課防災係
☎551・1638

り、倒木を切って通行の安全を図ったり、飛ばされる寸前の塀を抑え、また、負傷者を医療機関に搬送するなどの活躍をしました。

「地震」

3月11日に発生した東日本大地震では、福生市でも震度4の大きな揺れを感知しました。地震発生後30分以内には、消防団が指揮車と5台の消防自動車ポンプ車を出動させ、市役所に設置された災害対策本部室と無線連絡を取り合い、いち早く市内の被害状況を把握しました。また、大地震に伴う計画停電による社会生活の混乱時にも市内を巡回し、ろうそくによる火災などの防止に向け広報活動などを行ないました。

福生のまちを、守るため。

▼②防災活動

毎年、8月に開催する福生市総合防災訓練を始め、日ごろから市内34地区の地域住民から成る福生市自主防災組織とともに、地域の防災訓練に参加し、救急救命資格を生かして、地域の皆さんに救命技術の指導をしています。また、近年、猛威を振るうゲリラ豪雨対策として、入梅前には多摩川で福生消防署と合同で水防訓練を行っており、家庭にあるプランターを利用した簡単な水防方法の説明などもしています。



昨年の水防訓練の様子

東日本大震災でも高齢者の救助が問題になりました。市では、大災害時に消防、警察が救助に行けない時、自力での避難が困難な高齢者や障害のある方々を地域の力で援助する「災害時要援護者登録制度」を昨年開始しましたが、消防団は地域の自主防災組織、民生・児童委員の皆さんと共に、活動しています。今年の総合防災訓練では、登録世帯を訪問し、安否確認訓練も行ないました。

▼③地域活動への参加

福生七夕まつり、桜まつり等では、警戒活動を実施し地域に貢献しています。そこから地域の人々との交流も図れています。

▼④その他の活動、行事

地域の防災力向上、災害時のリーダーの必要性から、消防団員は、防災に関する知識を習得するためにさまざまな講演会などに参加しています。

また、各分団では、福利厚生としてスポーツ、レクリエーションや家族も参加しての楽しい日帰り旅行なども行っており、同年代で家族ぐるみの活動により、消防団は居住または勤務する福生市に一生の友だちを作れる場所でもあります。

全力投球

福生市長 加藤育男



桜の木のように

昔から多くの先輩方から、「年をとると時が経つのが早くなる。」と言われていたのが、最近とみにそう感じるようになり、半年、一年がものすごいスピードで過ぎ去って行きます。子どもころは、一年どころか一週間がうんざりする程長く、日曜日に目一杯友人と遊び、月曜日に登校する時には、早く土曜日になることを願っていた記憶があります。そのころはあまり先のことを考えず、時間がスローモーションのように、ゆるやかに流れていたのでしょうか。

「時の流れは唯一、万民に与えられた公平な事象」と言われているのになぜなのか。本当に年齢のせいなのか、一日一日が勝負の仕事故なのかと思いを巡らせて、ふと自宅の庭に目を移すと、そこには桜の木。この桜の樹齢は57年。祖父が私の誕生に喜び、苗木を植えたものです。ある時、私がなぜ桜なのか尋ねたところ、祖父曰く、「桜は古代から日本人の一番好きな木で『神座』とも書く。それと、お前が学校のテストで良い成績だと花丸が貰えるだろう。あのデザインが桜だから。」とのことで、よく分からない理由だと思ったことを懐かしく思い出しました。桜の木を眺めながら、共に57年を生きてきたこの木のよう、しっかりと腰を下ろし、根を張って日々を過ごさねばと感じました。